

みんなの市議会

定例会概要	1・2
一般質問	3・4
委員会報告	4~9
伊達市議会議員選挙区条例検討特別委員会	9
所管事務調査報告	10
行政視察報告	11・12
他団体会議報告	13
全員協議会	14
議員研修会・編集後記 ほか	15

「前例踏襲から脱却」を目指す 総額 312 億 6,898 万円の 平成28年度予算成立

第82号 2016.5.1

一般会計……………189億 4,970万円
 特別会計(6会計)…113億 3,609万円
 水道事業会計…………… 9億 8,319万円

伊達の歌碑を尋ねて 第四弾



桜小路の歌碑 (太陽の園に向かって右側の鉄塔の付近)

内浦湾を一望できる小高い丘の上にあります。「うす山桜」の「うす」は「有珠」と「薄」にかけた言葉で、「わが主、邦成公のお住まいが建てば移住者にとって喜びはひとしおであり、薄桃色の山桜もすぐその時から、こととぎの色香を増すことだろう」との思いがこの歌に込められています。
 伊達高校付近から太陽の園にまっすぐのびる平坦な道がやや上りにかかる辺りからを桜小路といいます。

浜丁の歌碑 (錦町旧国道通り木村建設入り口前)

明治以前の漁業は、松前藩による場所請負制度は廃止され、家臣11名に漁船をもたせ漁業を行わせるようになります。そして、その人達を「魚とり人」と呼んでいました。
 しかし、移住土族の大部分は漁業についての知識も浅く漁船を所有しても実際は旧出稼ぎ人や、番人の能力による以外になかったといわれています。



旭が岡の歌碑 (舟岡郵便局よりこれの木団地の駐車場付近)

旭が岡は、現在の舟岡町にこれの木団地の周辺をさし、移住当時は柴田船岡藩からの入植者に土地が割り当てられました。「朝の光が、残すところなく、広々とさし、登ってくる。この岡のあげぼのの景色はなんとすばらしいことだろう」と非常に眺めの良い所であったといわれています。
 当時ここから東側の一帯は、海に向かってなだらかな丘陵地帯となっており、ここに立つと新しい開墾地が一望に開け、晴れた日には内浦湾の向こうの駒ヶ岳を望むことができました。しかし今は新旧の建物が建てつくされています。

